

雨の季節ですね。ここ数年、梅雨に大雨の発生する回数が増え、災害が起こる危険が高くなっています。6月は土砂災害防止月間。くわしく知って備えましょう。今回は、2004年に起きた早明浦豪雨について学んでいる大川村の大川小中学校へ。高知県が6日、子どもたちや地域の人たちに行った「こども防災キャンプ」の中から、土砂災害についてしょうかいします。（野村圭）

雨の季節 土砂災害に備えよう



時間雨量180ミリを体験する子どもたち（大川村の大川小中学校）

土砂災害は3種類

土砂災害は、がけくずれ、土石流、地すべりの3種類です。



2018年7月の大雨で起きたがけくずれ（大豊町立川上名）

1 がけくずれ

雨がしみこんだり、地震が起きたりして、急な山がいきなりくずれ落ちる。家の裏山などで起こると、にげおくれる人も多く被害が大きくなる。

ポイント 山からできるだけ遠く、高い場所に早めにひなんする。



2004年8月の早明浦豪雨で起きた土石流（大川村船戸）

2 土石流

大雨でくずれた土や石が水といっしょになって山から流れる。時速40キロ（陸上男子100メートルで世界一の記録を持つウサイン・ボルト選手が走る速さ）で、家や田んぼをおし流す。

ポイント 流れる方向に対し直角ににげて、高い場所にひなんする。



1972年7月の繁藤災害で起きた地すべり（香美市土佐山田町）

3 地すべり

大雨で土の中に水がたまると、ゆるやかなかたむきの山がゆっくりすべり落ちる。がけくずれよりも広い面積で起き、電柱や木そのまますべる。

ポイント 雨がやんでも土の中に水がたまるので、しばらくは注意する。

危険な場所 地図で調べよう

土砂災害は川から水があふれる洪水とちがって、目を見た時に危険性が高くなっているかどうかが分かりにくいです。そこで、高知県防災砂防課は「高知県の土砂災害危険度情報」＝QRコード＝の利用を呼びかけています。大雨が降ると危ない場所は「土

砂災害警戒区域」と呼ばれ、地図が黄色と赤色になっています。赤色は、建物がこわれるなど命を失う可能性がより高い場所です。その場所で、どんな土砂災害が起こる危険があるのかも、色別で示されています。

調べてみないか？
大川小中学校の子どもたちは、学校や役場、自分の家などを確かめました。みなさんも、家やよく行く場所などを調べてみませんか？ 防災砂防課は「自分の家の周りに危ないところがないか確認し、どこにひなんするのか、何を持ち出すのかを家族で話し合ってください」と話しています。



6年・増淵日向さん
ぼくが住んでいる留学センターはイエローとレッド。近くに山もあるし、いつ土石流が起きてもおかしくないから気をつけたいと思った

高知県防災砂防課 滝下高志さん（33）
早めのひなんを
梅雨に入り、河川のはんらんに加え、土砂災害の危険性も高くなっています。土砂災害や天気の情報事前に調べて、早めのひなんをしてください